

第1回～第10回 有明臨床解剖学シンポジウムの開催報告

中 澤 正 孝¹⁾ 小 泉 政 啓²⁾ 佐 藤 達 夫³⁾

I. はじめに

東京有明医療大学は保健医療学部（鍼灸学科と柔道整復学科）と看護学部（看護学科）で構成され、患者目線で医療を実践できる人材育成を目指している。適切なcure（治療）やcare（専門的支援）を患者に施すには、人体に関する構造や機能の理解は不可欠である。そこで、学内外の専門家を招いて、鍼灸学、柔道整復学および看護学の臨床現場と密接に関連する解剖学の話題を提供し、基礎医学に基づいた医療の実践に貢献することを目的として、本学の開学以来、「有明臨床解剖学シンポジウム」が臨床解剖研究会の援助を受けつつ毎年実施されてきた。開学10年を迎えたところで、これまでの本シンポジウム開催内容を報告するとともに、本学名誉学長の佐藤達夫先生および新旧世話人からの寄稿文を紹介する。

II. シンポジウム概要

これまで合計10回のシンポジウムを開催し、総演題数は41であった。演者、演題名、座長および参加者人数を表1と



写真1 第1回シンポジウムの懇親会で挨拶する櫻井康司理事長



写真2 第2回シンポジウムで講演中の佐藤達夫名誉学長



写真3 中講義室における第2回シンポジウムの風景

¹⁾ 東京有明医療大学保健医療学部柔道整復学科 E-mail address : nakazawa@tau.ac.jp
²⁾ 東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科
³⁾ 東京有明医療大学 名誉学長

表2に示す(写真1～3)。会場は本学内の大講義室や中講義室を使用した。第5回の本シンポジウムは第22回日本柔道整復接骨医学会学術大会とのジョイントシンポジウム形式により、本学のHANADA HALLで開催された。

Ⅲ. 「節目を迎えた有明臨床解剖学シンポジウムについて」

東京有明医療大学 名誉学長 佐藤 達夫

東京有明医療大学が2009年4月に開学した際、保健医療学部のカリキュラムを見て人体解剖学が重視されているのを知り、少なからず驚いた。鍼灸学と柔道整復学を対象とする学科からすれば当然かもしれない。それに人材にも恵まれていた。解剖学分野で碩学との令名高い小泉政啓先生がいるし、教育熱心な木村明彦先生、成瀬秀夫先生、さらに当時、東京医科歯科大学(TMDU)で研究を続行していた中澤正孝先生、そして後に加わった五味敏昭先生を数えれば、実に多彩で強力なメンバーである。そして理事長の櫻井康司先生自身、解剖学に明るい方である。この陣容を学生の正規の教育だけに充当するのは何としてももったいないと思われた。そこで小泉先生と語り、互いに啓発できそうなシンポジウムを年に一度は開催しようということになり、理事長と教員各位のご理解を得て大学の行うシンポジウムにいただいた。

対象は鍼灸・柔整・看護の3分野とした。もちろん看護では解剖学は少数派に属するが、近年看護系大学・学部に大学院設置が進み、看護学と解剖学教室のコラボを通じて看護技術の科学的見直しが進んできたことが無視できないと思われるのである。名古屋大学で実際に人体解剖に取り組んでいる藤本悦子先生(第3回)の視点には教えられるところが多かった。鍼灸ではいわゆる「つぼ」の解剖学的意義がとりざたされてきたが、実際の剖検で全般的に検証したものはない。あらかじめ、すべてのつぼに鍼を打った遺体で解剖を試みた坂本裕和先生(第1回および第2回)のお仕事は、先生が有名な剖出の手練れであることを考えれば、鍼灸学の将来にとって貴重な基礎資料となることであろう。柔整は解剖学に最も結び付けやすい分野である。整形外科における問題点を解剖で追及している望月智之先生(第3回)や二村昭元先生(第4回)の仕事には大いに啓発されたに違いない。

巷間、とかく解剖学の評判は芳しくない。記述解剖学から一皮むけた説明解剖学に脱皮していないように思えるのであろう。その弊を改めるのがこのシンポの一つの目的であるが、比較解剖学という武器を駆使した小泉政啓先生(第1回、第3回および第7回)や山田 格先生(第8回)の講話はわれわれの知的欲求をかきたてるものがあつた。また、まったく切り口の異なる講演も参考になるものである。その稀有な例として金井裕也氏(第10回)を挙げることができるだろう。納得がいくイラストを仕上げるために、20年以上も前に私がいたTMDUの解剖学教室で、講義を聴講したあと実習にも参加して剖出所見のスケッチを続けた篤学の士である。東京芸大の油絵科で磨いた腕は、解剖イラストを単なるトレースから脱した絵画芸術に高めている。氏の講話を理解することは必ずしも容易ではないが、多くの受講者に解剖イラストのルネッサンスを思わせるものがあつた。

以上に挙げた例はほんの一部に過ぎない。有明で語られた多くの講演がいずれも我々のこれからの教育・研究の糧になっていくことであろう。これまでご協力をいただいた櫻井康司理事長、本間生夫学長をはじめとて教員、職員の方々に心から敬意の念と感謝をささげるものである。10回という節目を迎えて、第2期の革袋を中澤正孝先生が準備してくれている。充実したプログラムと発表が継続することを心から祈っている。

Ⅳ. 「有明臨床解剖学シンポジウム 10周年記念に寄せて」

東京有明医療大学 保健医療学部 鍼灸学科 小泉 政啓
(第1回～第8回 有明臨床解剖学シンポジウム 世話人)

本シンポジウムは、10年前の2009年に当時本学の学長に就任されたばかりの佐藤達夫先生のお声かけによりはじまりました。佐藤先生は、東京医科歯科大学の解剖学教授でいらっしゃる時にすでに臨床解剖学の研究会を立ち上げられており、主に医学領域の教員、研究者、医師の間では臨床解剖学の第1人者とされていました。一方で、佐藤先生が学長となられた本学は、鍼灸学、柔道整復学、看護学の3学科を擁し、いずれの分野においても人体構造を正しく理解していることが重要となることから、本学はこのような保健医療学分野の教員・臨床家を対象とした臨床解剖学研究の発信基地となるにふさわしいとお考えになっておられました。そこで、早くも本学開学の年2009年11月14日(土)に「第1回有明臨床解剖学シンポジウム」が開催されました。当日は強風が吹き荒れる雨模様の中、およそ100人という多数の参加者をお迎えすることができました。不慣れながら世話人を務めた私は、シンポジウムの成功に心より安堵するとと

もに、保健医療学分野における解剖学の重要性を再確認させてもらったとおぼえております。第2－5回には、参加者の方々に本シンポジウムについてのアンケートを実施いたしましたが、特に鍼灸師、柔整師、看護師など臨床現場で働く方々からの支持が大きく、一方で今後の期待感の大きさにシンポジウム世話人としての責任を痛切に感じたものです。

私自身は、比較解剖学というおよそ臨床現場とは関連のない研究をしておりますが、医学部あるいは本学のような医療系の大学教育においては、臨床と密接に関連づけた解剖学的な知識が重要であり、そのため教授する教員にも臨床解剖学的な視野というものが不可欠だと思います。その点で、私にとりまして本シンポジウムは勉強の場であり、新たな発見の場でもありました。しかし、私自身マンネリ化を危惧し、10年をひと区切りとしてリニューアルして、今後は若き解剖学の徒である本学の中澤先生に、本シンポジウムの企画をお願いすることにいたしました。この場をお借りして、いままで有明臨床解剖学シンポジウムにご協力頂いた演者の先生方、参加者の方々、お手伝い頂いた教職員・学生の皆様に衷心より感謝申し上げます。今後は保健医療学分野における臨床解剖学の一層の発展に寄与すべく、本シンポジウムへのさらなるご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

V. 「これからの有明臨床解剖学シンポジウム」

東京有明医療大学 保健医療学部 柔道整復学科 中澤 正孝
(第9回、第10回 有明臨床解剖学シンポジウム 世話人)

本シンポジウムが始まった頃、私はまだ論文をあまり書いたことがなく、研究者としての道のりを踏み出し始めたばかりでした。学会やシンポジウムは「講演を聞きに行くところ」という認識しかありませんでした。そんな頼りない若輩者に本シンポジウムの企画・運営に携わる機会を与えていただいたことは、本学に所属して以来、殊に貴重な経験となりました。

これまで、多くの方々がシンポジウムに参加し、多様な演者から解剖学について語っていただきました。鍼灸学、看護学、整形外科学、比較解剖学、比較発生学など、多岐にわたる観点から解剖学を追究した講演に触れることで、ヒトの構造の奥深さを目の当たりにしました。また、多くの演者や参加者と交流を深める出会いもありました。多岐にわたる観点からヒトの構造について知ることは柔道整復師が幅広い視点を持って患者を診ることにきっとつながるであろうと考えるようになりました。

第9回と第10回本シンポジウムの世話人を務めさせて頂いたことを機に、より柔道整復師の臨床に即した解剖学シンポジウムとして今後の企画をしたいと佐藤先生にお願いしたところ、「基礎から臨床に発展的なシフトを遂げたと思われる」ということで快く了承していただきました。昨今は柔道整復師と鍼灸師2つの資格を有する、いわゆるダブルライセンスの方々も増えていることから、鍼灸師の先生方にもご登壇いただき、その治療方法や考え方を学ぶ機会も作る予定です。本シンポジウムの継続を通して、本学のさらなる進化に少しでも貢献できることを目指します。

最後になりますが、有明臨床解剖学シンポジウムの開催にあたりましてこれまで多くの援助を本学および臨床解剖研究会より受けました。櫻井康司理事長、本間生夫学長ならびに事務局の皆様にご改めまして深く感謝申し上げます。

表1 第1回～第5回のシンポジウム内容

第1回 2009年11月14日開催 参加者92名

講演順	演者	演題	座長
1	小泉政啓	腕神経叢の複雑さの進化について －姿勢変化による筋制御の進化－	成瀬秀夫
2	坂本裕和 (筑波技術大学)	経穴解剖学の確立をめざして	坂井友実
3	布袋健司 (三井記念病院)	前腕の静脈穿刺と神経の関係について	関 寛之
4	佐藤達夫	背筋を解剖学的にどうとらえるか	加藤 征 (日体柔整専門学校)

第2回 2010年10月9日開催 参加者72名

講演順	演者	演題	座長
1	坂本裕和 (筑波技術大学)	腰痛の治療部位としての坐骨神経への刺激について	小泉政啓
2	中谷壽男 (金沢大学)	三角筋、殿筋の筋肉内注射での神経損傷を伴わない適切な位置の研究	高橋正子
3	高野一夫 加藤総夫 (東京慈恵会医科大学)	迷走神経と呼吸反射	林 洋
4	川島友和 (東京女子医科大学)	心臓神経の形態から見たその臨床解剖学的ならびに比較形態学的意義	林 洋
5	佐藤達夫	腹部・骨盤部の自律神経系	柚木 脩

第3回 2011年11月5日開催 参加者65名

講演順	演者	演題	座長
1	藤本悦子 (名古屋大学)	解剖生理学から見直す看護技術	金井一薫
2	小泉政啓	肩帯の比較解剖学 －肩甲棘と棘上・棘下筋－	高野一夫
3	中澤正孝	烏口鎖骨関節 －第3の機能的肩関節－	成瀬秀夫
4	望月智之 (東京医科歯科大学大学院)	肩腱板断裂の診断と治療 －新しい解剖知見によって何が変わったか？－	佐藤達夫
5	佐藤達夫	膜構築を中心とした人体構造	小泉政啓

第4回 2012年11月17日開催 参加者53名

講演順	演者	演題	座長
1	田口明子 (北里大学)	ヒトのかたち、動物のかたち	関谷伸一 (新潟県立看護大学)
2	大谷 修 (富山大学 名誉教授)	リンパ管とリンパ節の構造と働き	小泉政啓
3	熊木克治 (新潟大学 名誉教授)	ヒボクラテスの木	宮木孝昌 (愛知医科大学)
4	二村昭元 (東京医科歯科大学大学院)	上腕骨外側上顆炎に関する肘前腕伸筋群起始部の解剖学的知見	佐藤達夫
5	佐藤達夫	リンパ系の解剖学 －骨盤から胸管まで追いかける－	竹内修二 (浜松大学)

第5回 2013年11月23日開催 第22回日本柔道整復接骨医学会学術大会とのジョイントシンポジウム形式で開催

講演順	演者	演題	座長
1	加藤 征 (信州医療福祉専門学校)	柔整国試と他分野出題の類解剖問題から見た柔整臨床解剖の考察	成瀬秀夫
2	高橋 弦 (山王整形クリニック)	体性感覚構造図と運動器疼痛症候学	小泉政啓
3	秋田恵一 (東京医科歯科大学大学院)	肩関節ならびに上肢帯の構造 －とくに烏口上腕靱帯の構造について－	小泉政啓

表2 第6回～第10回のシンポジウム内容

第6回 2014年12月13日開催 参加者42名

講演順	演者	演題	座長
1	那須久代 (東京医科歯科大学大学院)	前鋸筋の形態と神経支配 －肩甲挙筋・菱形筋との関係に着目して－	小泉政啓
2	千葉正司 (弘前学院大学)	末梢神経の分布・解析によるデルマトーム図の作製	小泉政啓
3	松村譲児 (杏林大学)	ピロリドン固定遺体の解剖 －臨床解剖への適用可能性－	佐藤達夫
4	馬場悠男 (国立科学博物館 名誉研究員)	人類の進化 －いつから優しい男が女にもてるようになったか－	佐藤達夫
5	佐藤達夫	筋注・静脈穿刺の解剖学的基礎の再検討	松村譲児 (杏林大学)

第7回 2015年11月7日開催 参加者18名

講演順	演者	演題	座長
1	中澤正孝	鎖骨骨折の転位した骨片が筋損傷に与える影響	小泉政啓
2	荒川高光 (神戸大学)	支配神経パターンから読み解く下肢骨格筋の由来と形成過程	小泉政啓
3	小泉政啓	頸部の腹側体幹筋の比較解剖学	佐藤達夫
4	易 勤 (首都大学東京)	Mesopancreas の視点から膵頭神経叢の分布形態の再検討	佐藤達夫

第8回 2016年11月26日開催 参加者35名

講演順	演者	演題	座長
1	中野 隆 (愛知医科大学)	機能解剖で斬る運動器疾患	小泉政啓
2	佐藤正博 (佐藤接骨院, 岩手医科大学)	膝関節の屈筋支帯として機能する膝窩筋膜の三層構造	中澤正孝
3	山田 格 (国立科学博物館 名誉研究員)	脊椎動物のからだ	佐藤達夫
4	関谷伸一 (新潟県立看護大学 名誉教授)	横隔神経欠損ブタ胎児の解剖 －横隔膜弛緩症との関連について－	磯貝純夫 (岩手医科大学)

第9回 2018年1月20日開催 参加者68名

講演順	演者	演題	座長
1	浅原正和 (愛知学院大学)	カモノハシはなぜ歯を失った？ －化石から推測される三叉神経の発達と行動の進化－	小泉政啓
2	掛川 晃 (帝京平成大学, 信州大学)	距腿関節と距骨下関節を制御する靱帯の構造	中澤正孝
3	土屋正光 (同愛記念病院 名誉院長)	大相撲力士のスポーツ障害	佐藤達夫

第10回 2019年1月19日開催 参加者50名

講演順	演者	演題	座長
1	武智正樹 (東京医科歯科大学大学院)	我々の耳小骨はなぜ3つあるのか？ －比較解剖学と比較発生学から読み解く中耳の形態進化－	小泉政啓
2	江玉睦明 (新潟医療福祉大学)	アキレス腱の捻れ構造の形態学的特徴と機能的役割について	中澤正孝
3	金井裕也 メディカルイラストレーター	心臓を描く －医学図譜制作の現場から－	成瀬秀夫